

科目名：臨床実習Ⅰ－1＜附属病院・歯科診療所＞		必	7 単位 (315 時間)
(Clinical training Ⅰ-1)			
履修年次/時期：2 年次 後期		授業形態：実習	
主担当教員：山本裕子（実務経験 歯科衛生士 16 年：実務経験から歯科衛生士として臨床の現場で患者に対応する技術・能力が身に付けられるように実習を指導していく）			
担当教員：片岡あい子、関端麻美、長谷徹			
学修目的	口腔の専門職として、歯科衛生士に求められる「責任感」「誠実性」「積極性」「協調性」「判断力」を培い、歯科衛生士業務を実践できる能力を養う。 CP 1,3,4,5,6,に関連する。 科目 No. S2C13H19		
この科目が目的としている DP	1. 医療専門職としての倫理観を有する。	(1) 生命の尊厳を基盤とし、医療における倫理観を有する。	○
		(2) 医療専門職として礼節を重んじ品格を備える。	○
	2. 医療専門職として健康問題の発見と課題に取り組む能力を有する。	(1) 教養と考える力を身につけ、主体的に課題解決に取り組む能力を有する。	○
		(2) 専門的知識や技術を修得し、人びとの健康に寄与できる能力を有する。	○
		(3) 社会の動向に関心をもち、学び続ける力を有する。	○
	3. 口腔の健康支援を通し、全身の健康を守る高度な専門的能力を有する。	(1) 多様な価値観を持った人びとを理解し、人間関係を築く能力を有する。	○
		(2) 優しさに溢れる歯科衛生士として地域社会に貢献する能力を有する。	○
		(3) 歯科衛生士としての役割と責任を自覚し、多職種と協働できる能力を有する。	◎
	◎： この講義・演習・実習と最も関連がある DP ○： この講義・演習・実習と関連がある DP		
	到達目標	1. 業務を実践するために必要な知識、技術を修得する。 2. メディカルスタッフの一員としての行動を身に付ける。 3. 対象者の問題点を総合的に把握し、解決できる能力を身に付ける。	
授業概要	診療所および神奈川歯科大学附属病院において、歯科医師、歯科衛生士、看護師の指導のもとに歯科診療補助・介助、予防処置、保健指導を行う。また、診療室の管理、感染予防などを含む歯科衛生士業務全般について学ぶ。		
授業計画	Ⅰ 神奈川歯科大学附属病院、神奈川歯科大学附属横浜クリニックにおける実習 【実習方法および内容】2 回のオリエンテーション時に概要説明を行う。 上記施設は障がい者歯科、全身管理高齢者歯科、小児歯科、矯正歯科、保存科、補綴科、顎・口腔インプラント科、口腔外科等の診療分野に分かれており、各科において実習できるように配当される。附属病院の口腔外科では病棟における実習も含まれ、看護師の患者への対応等も学修する。実施要項に各科の到達目標を示す。 【予習】配布された学修ノートや資料で、事前学修を行う。 【復習】実習した内容を正しく理解し把握するために、その内容、必要器材、手順、注意事項をポートフォリオに記録し、指導者より点検および指導を受ける。学修ノートに実習で得た知識を書き加え、整理する。 【実習内容達成度自己評価】最終日にルーブリック（セルフチェック票）に記入し、提出する。 各科での実習終了後、レポートを作成し提出する。全実習終了後には、全体を通しての反省および感想を提出する。		

	Ⅱ 歯科診療所における実習 【実習場所】神奈川県・東京都内の歯科診療所 【実習方法および内容】オリエンテーション時に概要説明を行う。 歯科診療所における歯科診療の概要を知り、歯科衛生士業務を理解し、実践する。 【予習】学修ノートを整理する。 【復習】実習した内容を正しく理解し把握するために、その内容、必要器材、手順、注意事項をポートフォリオに記録し、指導者より点検および指導を受ける。学修ノートに実習で得た知識を書き加え、整理する。実習終了後には、全体を通しての反省および感想を提出する。 Ⅲ 全体の行動目標（詳細は実施要項に示す） 1. 歯科衛生士の基本姿勢を実践できる (1) 時間の遵守 (2) 自己の健康管理 (3) 言葉づかい (4) 身だしなみ (5) 守秘義務 2. 診療体系を理解し、実践できる (1) 診療前準備、および後片付け (2) 受付業務、患者の受診準備 (3) 基本的診査器具の準備 (4) 診査診断の補助 (5) 診療の流れに応じた補助・介助 (6) 使用器材の管理 (7) 薬剤の種類、用途、保管方法 (8) 消毒・滅菌方法 (9) 医療廃棄物の取り扱い 3. 各科の診療内容を理解する 4. X線撮影法を理解し、補助ができる (1) X線撮影装置の種類 (2) X線撮影の準備と補助 (3) X線写真フィルムの現像操作、整理及び保管方法 (4) 防護法の実際 5. 頻用する歯科材料の取り扱い法に習熟する 6. 他職種業務を理解し、チーム医療を実践する 7. 感染予防対策を理解し、実践する 8. 患者への接し方を理解し、実践できる
評価方法	本試験 60%、実習評価 40%（実習参加状況・ルーブリック・学修ノート・各科レポート） 評価方法の詳細はオリエンテーション時に説明します。 各診療科における実習に対するフィードバックは随時個別に行います。 試験に対するフィードバックは掲示で行います。

教科書	専門および基礎科目教科書
参考書	随時紹介
問い合わせ- 連絡先	山本：月～金 16：20～17：00 yamamoto.yuko@kdu.ac.jp 3号館 2F 山本研究室 片岡：月～金 16：20～17：00 kataoka@kdu.ac.jp 3号館 2F 片岡研究室 関端：月～金 16：20～17：00 kobori@kdu.ac.jp 3号館 2F 教員研究室 長谷：月・木・金 16：40～17：00 nagatani@kdu.ac.jp 4号館 2F 長谷研究室（国試対策室） 不在時、実習欠席時の連絡方法については、オリエンテーションで説明します。